

- 夏休みに向けて
- センター試験について
- 東工大出張講義報告

## 「私が国語教師になるまで」

国語科 石井 明子

中高生の頃はハリウッド映画が大好きで、英語が得意科目でした。特に英会話の授業が好きでALTの先生方とは授業以外でも話すようにしていた程です。しかし、人生を狂わすような転機を迎えたのは高2のとき。校内一怖いと有名な英語の先生が担任になったのです。当然英語の授業もその先生が担当でしたが、噂通りの恐ろしさで…まず年度初めの授業からいきなり教科書に入り、どこをどうやればいいのかの説明も全くないまま予習をしてこないクラス全員に対して厳しく怒る、という感じでした。その後の授業でも、指名されたらまず起立し正確に答えられるまでは座れない、というスタイルで、クラスの大半が一時間立ちっぱなしという日もありました。そんな授業ばかり受けていたので、あれほど大好きだった英語が一気につまらなくなり、成績もあつという間に落ちてしまいました。

一方、国語の先生方は自分の意見を尊重してくださる方が多くて随分救われました。漱石の「こころ」を学習し終えた後で自分なりの解釈をまとめる課題では、最後の方に書いた些細な一言をととても褒めてくださって、英語で完全に失っていた自信を取り戻せたようでした。大学で高1の頃希望していた英語系ではなく国語系の学科に進学したのは当然の流れだったのかもしれませんが。

大学に進学すると「アナウンサーになりたい!」「国語教師になりたい!」と将来の夢がはっきり決まっている友人が多くて驚きました。その中でも、教師を目指す友人は常々「明子は教師に向いている!」と言ってくれていて、サークルのコーチにも「あなたは教える仕事が向いている」とお声掛け頂いて、徐々に教師も悪くないのかも…と思うようになりました。一応就職活動もしましたが、とある企業から内々定をいただいて活動を止め、教育実習に入りました。当然ですが、たった3週間では授業も上手にできず、クラスの生徒とも十分な絆を築くことができなくて悔しい気持ちばかりが残り、このまま企業に就職していいのか…と悶々とした日々が続きました。一旦就活は終わらせていましたが、大学の就職課で探すと私学の教員募集は始まったばかり。これはもう一度活動するしかない!と決意し、再びルートスーツを引っ張り出して私学適性検査(私学の教員採用試験のようなもの)の説明会に顔を出しました。そして最終的には地元の私立中高一貫校から内々定をいただき、大学卒業後からそちらでお世話になることになったのです。

このように自分の半生を振り返ると、やはり高校の先生の影響が大きかったように思います。母校の英語の先生は厳しすぎて相談も何もできませんでしたが、新宿高校には素晴らしい先生方がたくさんいらっしゃるの、みなさんの可能性を伸ばしてくださるはず。是非先生方を頼ってください!また、私は友人の言葉にも救われました。もし大学の友人が「明子は教師に向いている!」と言い続けてくれなかったら、教師になることはなかったかもしれません。みなさんの言葉にも“他者の人生を変えるかもしれない”ほどの影響力がある、ということを実感して言葉を交わしてほしいと願っています。



## ○夏を制する者は…

ようやく夏休みです。ほっと一息、と言いたいところですが、1年生は臨海教室、2年生は部活動と朝陽祭準備、そして3年生は勝負の夏となります。昔から「夏を制する者は受験を制す」と言われるほど、受験生にとっては貴重な40日間。なりふり構わずやるべきことに集中しましょう。

### □ 学習のアドバイス

学習面では、次のことがらに注意してください。

#### 1、2年生は

皆さんが目指していく大学で要求される力は、記述力と応用力。覚えた知識をきちんと消化し、その確かな知識力を活用して、思考し、表現するという能力が求められます。特にこれからの大学入試改革で求められる能力です。一問一答のクイズのような問題ではなく、骨のある問題、歯ごたえのある問題に取り組み、ねばり強く思考することを、是非この夏に経験してください。そこで…

- ◇ 学習計画は意地でも実践する。(たとえ部活動があっても、何があっても。)
- ◇ 学校の講習などは、自分の学習リズムを築くために活用する。(自分が主体)
- ◇ 1、2年生で仕上げておくべきことはやっておく。後回しにしない。そのための夏休みと位置づけて弱点強化に努める。
- ◇ 土台づくり。とにかく読書。「進路のしおり」に紹介してあるものを中心に、新書3冊を読み切ろう。

#### 3年生は…

5月に実施した河合記述模試の結果からこの夏に取り組むべき課題は見えているはずです。まさに「一期の境こなり」という決意をもって取り組んでください。

志望校の可否判定で、たとえE判定であったとしても、今はまだ気にする時期ではありません。秋の模試までずっとE判定だったのに本番で合格する生徒は毎年大勢います。早く諦めたり早く志望レベルを下げるのが一番いけないことです。信念を持ってこの夏に努力し、さらに力をつけましょう。

3年生は夏休み初日から夏期講習が始まります。各自で予定を確認してください。40日間集中して取り組みましょう。

- 模試の結果を次に活かそう。判定で一喜一憂するのではなく、弱点の強化に。
- 志望校の出題傾向の把握とその対策を講じよう。教科の先生に相談も。
- 計画通りにいかないこともある。学習状況に応じて計画の見直しが必要な時もある。
- 不安になったら「進路のしおり」の先輩の「合格体験談」を読もう。力が出ます。先日配られた「センターベストV」も参考にしましょう。

## ○センター試験関連日程の確認

センター試験に関する今後の予定は以下のとおりです。3年生はしっかり確認してください。

また、1、2年生も今後の参考にしてください。

9月4日(水) 6校時 センター説明会

※『受験案内』(志願票)を配布します。

9月9日(月) 10日(火)

検定料払い込み(各自で) \*窓口払い込みのみ

9月18日(水)「志願票」校内締切

※「志願票」には「受験教科・科目数」を記入します。したがって、この時までには志望校を確定させ、受験科目を大学のHPで確認しておく必要があります。志望校は第二、第三志望ぐらいまで考えておきましょう。

9月30日(月)「志願票」発送(学校一括)

※ 全員分を学校で一括して送ります。一人遅れると全員が遅れることとなります。期限を守るためにも余裕ある準備をお願いします。

10月下旬に「確認はがき」到着

※ 志願票の記載が正確に登録されているか確認のためのはがきです。

12月中旬に「受験票」到着

※ 受験会場がきまります。

◎ このほかに、イヤホン不適合者や特別配慮申請を希望する人は必ず担任の先生に相談して下さい。



## 東京工業大学出張講義（報告）

7月5日、期末考査最終日の午後、東京工業大学出張講義が実施されました。講師は、正井 秀俊（マサイ ヒデトシ）先生で、内容は「ジャグリングの“かたち”」でした。2年生全員が受講し、熱心に聴講していました。

## オープンキャンパス等への参加

オープンキャンパス、または大学合同説明会などのイベントへの参加は1、2年生の夏の課題になっています。首都圏の主な国公立大学、および私立大学のオープンキャンパス日程はクラスに掲示してあります。事前予約が必要な大学もありますので、各大学のHPで確認してから参加しましょう。

3年生で地方の大学を受験しようと考えている人

も、夏休みを利用して見学しておくといよいでしょう。

ここ数年、教育改革の一環で、大学もさまざまな改革を行っています。入試制度改革も毎年行われていて、受験科目の変更も少なくありません。また出願方法もネットで出願という大学が増えて来ています。そういう情報は、大学のHPやオープンキャンパスなどで早めにキャッチしておきましょう。

### 【今後の予定】

- 全校集会 7/16（火）
- 夏期講習 7/17～8/27  
学年ごとに予定が異なります。
- 閉庁日 8/9（金）～8/16（金）  
生活指導部からのプリントも確認しましょう
- オープンキャンパス等への参加
- センター説明会 9/4（水）3年

### 先輩からの言葉

## 「歓喜の瞬間を経験する・・・インターハイに優勝して」

元 三越伊勢丹 三越日本橋本店 店長  
1970年度 和歌山インターハイ全国大会 優勝（三段跳）

### 23回生 卜部 栄明

今から50年前の当時は、紛争で校内は荒れ、校庭ではヘルメットにタオルで顔を隠した学生が入り込みジグザグデモ。校舎内では、クラスメートがハンガーストライキ、授業がつぶれたり、学校が荒放題。クラスにすることが嫌で仕方がなかった私は、課外活動の陸上競技の練習をしている時が、一番楽しい時間でした。

その効果もあり高2の夏には、インターハイ全国大会出場が叶いました。しかし、予選落ち、自分の出場よりも高校のトップアスリートの後を追いつ、胸を躍らせていました。

その経験から、欲が出て、高3では全国大会に出場して結果を出したいという思いが強くなり、大きな目標が自分のこととして現実になりました。

こうして競技に向き合い、冬季練習はかなり真剣に取り組みました。その練習もどうしたら、楽しく、体力や競技力の向上につながるのか、自分達で考え、相談し、工夫を凝らしながら練習計画を作り実践していました。

翌春の都大会では、好記録で優勝。三段跳びの全国高校ランキングで一位となり、優勝候補として雑誌に取り上げられました。

そのころから、名門の新宿高校で、指導者もなく、生徒中心の活動で、助走路さえ直線で取れない狭い校庭での練習、といった環境下での課外活動の一環の生徒が、全国大会で活躍したら「かっこいいよなあ」と思うようになり一層練習に力が入りました。



優勝という目標が出来ると、今度はプレッシャーです。優勝するための練習をどう積み上げるのか？関東大会を乗り越え、全国大会の当日の8月2日にいかに体調やバイオリズムをピークにもっていけばよいのか、卒業された先輩のアドバイスを受けながら、自分に集中した孤独な練習が続きました。

大きな目標が出来、結果を出すための練習は自分との戦いであり、それまでの練習の苦しさとは違い、孤独でとても苦しいものでした。

そして当日、15m02を跳び優勝。追風2mで公認記録となり、東京都の高校記録を上回るものでした。

歓喜は突然、大波のように訪れました。ただそれは一瞬のことでした。

次なる目標は、大学受験です。インターハイ後に予備校の夏期講習などにも参加し、実力のなさには気が付いていましたが、10月の国体に参加するという関門にチャレンジした結果、出場は果たしたものの、国体終了後は、受験に取り残されてしまったという孤立感、勉強と競技の両方が中途半端に終わってしまうのではないかという焦燥感から、現実の自分に、かなり動揺していました。

受験へのチャレンジは、時間が足りない中で、現役での合格に目標を置き、科目数の少ない私立大学に絞り込み、残された3か月集中して取り組みました。練習で培われた集中力が発揮でき、結果、志望大学に合格という二つ目の小さい歓喜を経験出来ました。

こうした、高校生活を通して得たものは、目標を持ち、達成することで得られる歓喜とは素晴らしい体験であること。

そして、目標を達成するための日々は、苦しく、つらいことばかりだけれど、諦めずに一步一步進めていく、その先にしか歓喜は訪れないということです。

大学に進学してからも、学生日本一という目標をもって学生生活のすべてを陸上競技にかけまし

た。主将として迎えた4年時に手ごたえを感じていましたが、練習中の大きなけがで競技は諦めました。

社会人となった後も、競技に向き合ったと同じように、仕事に対して誠実に勤勉に取り組み、管理職としても学生時に身に付けたキャプテンシーを発揮して、責任を伴った仕事も体験させて貰いました。

しかし、退職するまで、高校時代ほどの歓喜が訪れることはありませんでした。むしろ、三越横浜店長として取り組んだ店舗閉鎖、日本橋三越本店長として臨んだ、経営再建や同業他社との経営統合など、つらく苦しいことを沢山経験しました。

歓喜とは逆の試練を乗り越えることが出来た原動力は、高校時代に頑張れたことや、大学で全てをかけて競技に打ち込んだこと、あれだけのことが出来たじゃないかという、自信が支えとしてあったからだと思います。

短い高校生活で、私は、たまたま陸上競技に出会い、続けることが出来ました。練習はつらかったですが競技は好きでした。自分の好きなこと、興味のあることを探し、そこで、目標を見つけ達成への努力をし続けること。そのプロセスにこそ、大切なものがあります。

小さくても良いから、やり切ったと言う歓喜を味わってください。きっと、自分自身を支える大きな力、自信になると思います。

